

私の想い

《諦めないことの大切さ》



大崎中学校
3年
竹下 絹佳

今までの中学校生活をふり返って、皆さんは、何を思い浮かべますか。

私は、この三年間、陸上を頑張ってきました。その中でも、特に思い出に残っている大会があります。それは、地区駅伝大会です。私は、今まで、夏は、短距離、冬は長距離とどちらの練習もしてきました。ですが、最後の大会に向けて、専門種目のハードル一本にしぼろうと思いい練習をしていました。そのため、地区駅伝に出るとは、思ってもいませんでした。しかし、先生に長距離をしないかと聞かれて、どうせ最後なら、ハードルも長距離も諦めずどこまでやれるか挑戦してみようと思いい、地区駅伝に向けての長距離練習が始まりました。長距離は、とてもきつかったのですが、やればやるほど今まで以上にタイムが伸びていったので頑張ることができました。それと同時に、県駅伝に出たいと思いい気持ちは、日に日に強くなりました。

そして、地区駅伝当日、今までの練習の成果と勝ちたいという思いを糧にこ

めて走りまわりました。結果は、県駅伝への出場権を得ることはできませんでしたが、最終区の人がゴールした瞬間いろんな気持ちがあがってきました。でも、県に行けなくなっても今まで練習を頑張ってきたことは、無駄にはならないと思いいます。負けて悔しい思いをしたからこそ学ぶこともたくさんあると思いいます。この悔しい思いを忘れず、最後の大会も諦めず全力をつくして頑張りたいと思いいます。

残り少ない学校生活となり、受験と引退が日々刻々と近づいてきています。その時が来るまで私には何ができるでしょうか。きつと、全部の物事に全力で取り組むことだと思いいます。

半年後「三年生の一年間が一番充実していた。」そう思えるように。

《失敗とは》



大崎中学校
3年
櫻本 章太郎

今まで人生を歩んできた中であなたはどんな失敗を経験してきたのだろうか。失敗を経験してきたことのない人はまずいないだろう。

私も今まで様々な失敗を繰り返して多くのことを学んできた。まず、一つ目の失敗は「部活動」での出来事である。私は野球の試合に得点できるチャンス

の回で、相手の球を打つことができなかった。その時はチームに迷惑をかけたと思いい、勝利の二文字が遠のいたと感じた。しかし、私はこの経験を得たからこそ仲間が打てなかった時に彼らの悔しい気持ちを理解することができた。また、失敗したことを理由に仲間を責めたりしてはいけないという意識も芽生えた。

そして、二つ目の失敗は「資格取得」についてである。漢字検定を一年生の一学期から始めていた私は、四級、三級と受けたが、結果は不合格という内容だった。勿論、合格できなかったことについて冷やかす人もいた。しかし、漢字検定を受検することで国語の漢字テストで普通の人よりも点数が高く、それが期末テストや実力テストにも反映した。

確かに漢字検定には落ちたが、自分が努力したことは、思いもよらない形で返ってきた。これからは一概には言えないが、努力したことに損はないと思いい。よく「失敗は成功の基」と言うが、少しは分かった気がした。

今回は二つの失敗例を挙げたが、どんな失敗でも失敗することはいいことだと思いい。失敗は自分を成長させる、逆に失敗が無ければ人生は楽しくないと思いい。おもいがけないハプニングや奇想天外なことがあるからこそ人生はおもしろいのだ。よく「失敗を恐れて何もしないのが一番の失敗」というどこかで聞いたことのあるフレーズがあるが、自分の体験を通してその言葉の深さや重みを知り、自分にとって一番大切な言葉だと改めて実感した。

編集後記

秋も深まり、朝夕の凜とした空気が静けさは、時に怠惰しそうな自分の心を引きしめるようです。

国内外では悲しい事件や事故、またインターネット上での犯罪など、想像を絶する出来事が発生していますが、そのような中で、今回ノーベル賞を受賞された山中氏によるiPS細胞の研究は、逆境に耐えながらたゆまぬ努力と執念で勝ち得た成果で、まさに技術国日本を証明したかのような大変誇らしいニュースとなりました。必ずや成果を見出すと先を見越した執念の研究は、今の政治家が学ぶべき大切な精神だと思いいます。

九月定例会では、防災や口蹄疫対策、また子育て支援など、喫緊の課題に対する予算を可決しました。住民目線の町政や議会のあり方を常に自問しながら、さらに住みやすい街づくりに努めてまいります。

(広報編集委員長 中倉 広文)

発行責任者

大崎町議会議長

中倉 毅